

○ 阿南市加茂谷地域では農業の経営環境が悪化するに従って若者の地域外への流出が進み、**集落機能の維持が困難**となりつつあった。こうした状況の中、住民を主体としたまちづくり組織が発足し、**地域を元気づけるための方策を検討し始めた。**

○ 普及センターでは**まちづくり方針の策定方法**やそれらを実行に移す際の**資金調達や運営について支援**を行った。

○ **就農希望者の受入れ体制の整備や就農誘致活動、就農トレーニングを支援することで移住就農者が定着**し始めている。

具体的な成果

1 アイデアの実行計画の策定と実行

実行計画	実行度
加茂谷HPの立ち上げ	○
ネット活用による空き家の再利用	○
加茂谷産直市	○
加茂谷HPによるネット販売	
小学校を起点とした遍路道体験ルート作り	○
婚活	○
遊休農地のリース制度	○
小学校の活用（お遍路さん宿泊）	
小学校の活用（住民のたまり場）	
地域なんでも協力隊の結成	○

2 就農希望者の定着

平成28年度、2組の若い夫婦が移住し、営農（チンゲンサイ周年栽培）を開始した。



普及指導員の活動

平成25年度

1 実行計画策定の支援

・ブレインストーミングやKJ法によるアイデアの創出と実行計画の策定

平成26年度～

2 地域の若者受入れ体制の整備

・都市部大学生インターンシップ受入れの支援による地域の若者受入れ体制の整備



若い力の重要性を実感！



平成26年度～

3 就農誘致活動の支援

・イベントでの就農誘致活動による都市部からの移住就農希望者の誘致
・地域体験まるごとツアーの開催による就農希望者と地域とのマッチング



地元農家と一緒にって働く農業へのアドバイス！



普及指導員だからできたこと

・アイデアの実行計画の策定にあたって、第三者として加わることで**客観的目線からアイデアのとりまとめを支援**することができた。

・就農希望者の営農開始へ向けて、各個人に**適した支援施策の紹介や技術習得研修の実施**ができた。

平成27年度～

4 就農希望者へのトレーニング

・就農プランの策定と技術習得研修の実施による新規就農者の定着と経営の早期安定化

徳島県

地域ぐるみで受け入れる移住就農誘致活動の支援

活動期間：平成28年度

1. 取組の背景

阿南市加茂谷地域は農業が盛んであるとともに、豊かな生態系や遍路道など様々な地域資源が残されている。その一方で、農業の経営環境が悪化するに従って若者の地域外への流出が進み、集落機能の維持が困難となりつつある。こうした状況の中、「加茂谷元気なまちづくり会」が平成25年に発足し、自然保護活動や、遍路道の整備、都市部学生のインターンシップや移住就農を前提とした都市住民の受入れ活動が行われている。本地区の取り組みを管内のモデル事例として構築させるため、定住促進・交流活性化活動を支援するとともに、移住就農を目指す人たちがスムーズに定着できるように支援する。

2. 活動内容（詳細）

①イベントでの就農誘致活動（1～2月）

新・農業人フェア（大阪会場、東京会場）へ参加し、会役員らとともに地域の農業や生活環境などの紹介をし、就農誘致活動を行った。地域の農業・農村の魅力は地元農家に、普及指導員は就農する際に活用できる事業などの紹介に重点をおき、役割分担を明確にした。その後、ブースへの訪問者たちをリスト化し、イベント終了後直ちに体験ツアーへの呼びかけを行い、移住就農への関心が冷めやまないうちに次なる一手を打った。



図1 イベントでの就農誘致活動

②地域体験まるごとツアーの開催(3～5月)

フェアで関心を持ってもらった人たちに短期体験ツアー（2泊3日）を行った。観光や主要施設の案内のみならず、実際に農業体験をし農家民宿で交流、宿泊することで地域のあたたかいフォローアップ体制の充実度を体感して頂いた。農業体験のノウハウは3年前から続けている都市大学生の農業体験ボランティア受け入れ時の経験が大いに活かされている。



図2 地域体験まるごとツアーの開催

当然のことながら、実際に移住就農を目指すとなると1回の短期体験ツアーの参加だけで決定することは困難である。そのため、2回目、3回目と必要に応じて予備的に相談会や見学・作業体験会を開催した。

③都市圏大学生のインターンシップ受入れ(8～9月)

8月から9月にかけての約1か月間、東京都の武蔵野大学から5班合計約80名の学生を受入れ、農作業を中心にボランティア実習を行った。本年度で3回目になり受入れ側(農家)としても手慣れてきており、作業メニューやスケジュール組みも綿密に行われた。普及指導員は農家目線での助言や記録収集に対して支援した。大学関係者とは次年度に向けてプログラムの見直しや改善点について綿密に打ち合わせを行った。



図3 大学生による農作業ボランティア

④移住就農希望者への就農トレーニング(通年)

就農誘致活動を機に、実際に当地区で移住就農することを決心した者たちに対してフォローアップ活動を行った。事前に訪問する日を調整し、集落の総代やベテラン農家等を交えて移住就農に向けたプラン相談会を実施した。総代からは村特有のしきたりや祭事等年間活動について、家主からは住居の管理について具体的に説明を受けた。農家からは農業初心者にするめる営農品目や規模、販売方法などについて概要説明を行い、普及指導員は特に活用できる補助施策や就農までのスケジュール概要について説明を行った。



図4 営農プラン相談会と技術指導

移住後は農業士やベテラン農家の指導のもと、個々に応じた営農研修メニューのプラン作成とその実行をサポートした。本年度は1名が県農業会議の就農スタート研修、2名が青年就農給付金の準備型を活用して研修を行った。普及指導員は定期的に指導農家と移住者の間を取り持ち、それぞれの意見を伺うことで状況把握し、研修が順調に遂行されるようにフォローアップした。

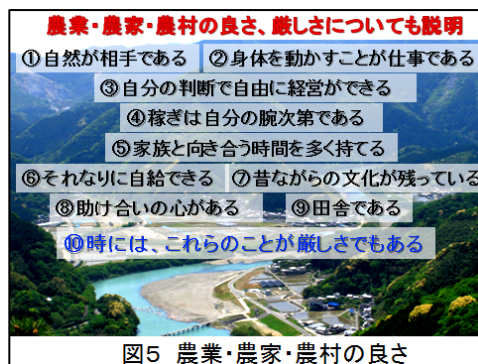


図5 農業・農家・農村の良さ

3. 具体的な成果(詳細)

農業を核とした都市圏の若者(大学生)らとの交流活動は、間接的に、移住者受入れの素地を築き上げた。若者が地域に与える影響力は大きく、災害や高齢化で衰退していた村に活気を取り戻すことを住民たちが実感できたからである。

平成 28 年度については、移住者のうち若い夫婦 1 組が 11 月から営農を開始し、青年就農給付金の営農開始型を活用するとともに、新規就農チューター支援事業を活用し、ベテラン農家によるマンツーマン指導を受け、早期の経営安定化に向けて努力している。さらに別の若い夫婦 1 組も 3 月から営農を開始している。



図6 農業未経験者でも独立経営へ

4. 農家等からの評価・コメント（阿南市 Y 氏）

3 年前にまとめた地域の活性化計画の実現に向かって動き出している。農業支援センターには関連する様々な活動に協力、参加して頂く中で、活用出来る有効な補助施策等の紹介等を行って頂きたいと思います。

5. 普及指導員のコメント（阿南農業支援センター・係長・山田裕）

就農希望者の定着と経営の早期安定化に向けて、各個人に適した支援施策の紹介や技術習得研修の実施が行えたことが普及活動の成果だと考えます。

6. 現状・今後の展開等

今後、継続的に就農誘致を進めるには、空き家、農地、ハウス等の農業施設がセットで準備できていなければ定着までのハードルは高い。特に本地域では空き家の確保が遅れており課題となっている。地域おこし協力隊を中心に加茂谷地区 10 ヶ町をくまなく調査し約 100 戸の空き家をピックアップ、そして各町の総代等と情報共有し交渉の余地がある物件については家主と交渉に当たった。交渉成立した物件については特に公開はせず（公開するほど物件数がないため）、地域体験ツアー等において就農を目指す若者夫婦を優先的に紹介することで定住に至っている。これら加茂谷地区の取り組みをモデル事例として管内全域へ展開していくが、当地区の事例は必ずしも他の地域に当てはまるとは限らない。それぞれの地域の実情に応じて柔軟に対応していきたい。

特に次年度以降は、JA 等関係機関や地域のベテラン農家等と密接に連携して就農研修施設の運営や新規就農者（就農希望者）に対する研修プログラムの実施を支援していく。

